

教えて！

# 市立病院

vol.49

市立病院事務局総務課 ☎ 22-2450

テーマ

眼科で2つの装置を更新！きめ細やかな治療が可能に

今月のドクター  
眼科  
高宮美智子医師



▲手術装置

始めに「網膜硝子体の手術装置」について説明します。この装置は、黄斑疾患や網膜硝子体疾患の場合に使用します。黄斑疾患には、視野の中心が見えなくなる黄斑円孔や、ゆっくりと視力が低下して物が歪んで見えたりする黄斑前膜などがあります。網膜硝子体疾患には、硝子体出血、網膜剥離、ぶどう膜炎などがあります。特に黄斑疾患の人は60代以上に多く、白内障にも対応して見え方を良くする必要もあります。新しい装置は手術機器の先端の直径が約0.5mmと非常に細く、カッターの回転速度も上がっているので、これまでより手術創が小さくて済みます。結膜切開が不要で時間の短縮ができるため、患者さんの負担は一層軽減しています。またこの1台の装置で、硝子体と白内障の手術を行うことができるようになりました。

次に「角膜内皮細胞の撮影装置」について説明しま

す。これは白内障、緑内障、網膜硝子体手術の前後に目の状態を確認したり角膜の病気になっているかを見たりする装置です。これまで眼の状態を撮影後5～10分かけて角膜内皮細胞の数を計測していたものが、一瞬でできるようになりました。この細胞は再生しないので加齢や薬の副作用、手術を重ねることなどで減少し、限度を超えると水疱性角膜症となって目が見えなくなる場合があります。この細胞数を治療の経過に合わせて把握することで、早めに細胞を保護する点眼を開始できます。計測が簡単になったため検査の機会を増やすことができ、きめ細やかで早めの治療につながるとともに、患者さんの待ち時間の短縮にも役立っています。

また今回、眼科のデータをまとめて保存する「眼科ファイリングシステム」も新しくなりました。画像を並行して表示したり、ビデオ画像を映したりできるので、患者さんへの説明も一層分かりやすくなるようになりました。

撮影装置▶

